



日本共産党杉並区議会議員

週刊

こんにちは  
こうへい  
**山田耕平**  
です

2024.11.7 No.520

このニュースへのご感想  
ご意見をお寄せください!

杉並区善福寺2-2-11

TEL 090-9973-0941

ホームページ

http://yamadakohei.jp

右QRコードを

ご活用下さい



# ジェンダー平等を進める条例制定に向けて 「ジェンダー平等に関する審議会」設置へ

## 記者会見で紹介された事業（一部）

- 防災意識の高揚 1千263万7千円
  - ・広報すぎなみ9・10月号で防災特集
  - ・広報すぎなみ1月1日号で最新版の「防災マップ」を全戸配布

- （仮称）ジェンダー平等に関する審議会の運営に係る経費 93万6千円

- ・審議会委員報酬、託児保育委託、会議録作成委託等

- 旧杉並中継所跡地の活用 384万4千円

・旧杉並中継所跡地を防災拠点として活用。平時はアーバンスポーツ施設としての活用を検討。整備に向けた調査等業務委託費。



杉並区議会第3回定例会では、ジェンダー平等に関する審議会を設置する条例や、補正予算として防災マップの全戸配布、子どもの権利保障・居場所づくりを推進する取り組みが示されました。岸本区政が2年経過する中で、前向きの変化が加速しています。

**ジェンダー平等に関する条例  
杉並区でも制定に向け準備**

第3回定例会では「（仮称）杉並区ジェンダー平等に関する審議会」を設置する議案が提案され、併せて補正予算にも、審議会設置に伴う費用も盛り込まれました。両議案とも賛成多数で可決・成立しました（右下表）。

議案には自民党や無所属都民ファースト等が反対しました。

本議案はジェンダー平等を進める条例制定を視野に、有識者や区民ら12人以上で構成し、来年秋頃までに答申を出す予定です。

審議会を設置することについて、岸本区長は「区の『男女共同参画行動計画』の次期改定もある。今の時代に合わせアップデートしていきたい」と話しました。

## ■「杉並区ジェンダー平等に関する審議会条例」に対する各会派の賛否(賛成31・反対16)

会派・人数	自民	共産	立憲	公明	無都	維無	生ネ	れ耕	安心	参政	革新	セン	緑グ	杉わ	共生	無	杉ク	f r
賛否	×	○	○	○	×	○3議	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	×

【賛否】○/賛成、×/反対、欠/欠席、「無維」は1名が議長の為、賛否は3名のみ表明。  
 【会派の正式名称】自民/杉並区議会自由民主党、共産/日本共産党杉並区議団、立憲/立憲民主党杉並区議団、公明/杉並区議会公明党、無都/無所属・都民ファーストの会、維無/維新・無所属議員団、生ネ/区議会生活者ネットワーク、れ耕/れいわを耕す、安心/安心・安全杉並の会、参政/参政党杉並、革新/都政を革新する会、セン/杉並をセンタク致し候、緑グ/緑の党グリーンズジャパン、杉わ/杉並わくわく会議、共生/共に生きる杉並、無/無所属（堀部）、杉ク/区政杉並クラブ、fr/far right.

## 防災マップを全戸配布へ

補正予算では、防災分野において「大地震に備えて」防災への備えキャンペーンとして、広報すぎなみ9月号・10月号に防災特集が組まれるほか、来年1月1月号の広報すぎなみで、最新版の「防災マップ」を全戸配布するための費用が計上されました。防災マップの全戸配布は党区議団も求めてきたことです。

## 子どもの権利保障、居場所づくり等の取り組みも

第3回定例会では、子どもの権利に関する条例の骨子案や「子どもの居場所づくり基本方針（素案）」も示され、児童館の7館新設方針が盛り込まれる等（週刊ニュース517・518号）、重要な定例会となりました。

# 新たな「東京における都市計画道路の整備方針（仮称）」の検討始まる

## 不要不急の都市計画道路の見直しを進めよ

資料③ 第1回庁内検討会・検討部会 2013年9月6日開催 配布資料3『東京における都市計画道路の整備方針（仮称）』の策定における検討の視点（たたき台）

### 2 新たな整備方針における基本理念及び基本目標の策定にあたってのキーワード

#### 【策定の際のポイント】

- ✓ 計画期間の10ヵ年、そしてその先を見据えた理念、目標の設定を行う。
- ✓ 人口減少、交通量減少時代の到来に備えた道路整備のあり方を検討し、理念、目標を設定する。



当時の開示資料より。

（世田谷区 吉田部長）

●資料2p6の「交通量減少時代の到来」という表現は、短絡的に読むと、道路整備は縮小なのかと言われるのではないかと。一方の参考資料では、まだまだ道路ネットワークが脆弱であることや、全国平均と比較しても不足していると言っている。今後、公表する資料等には、誤解の無いように、もう少し配慮した表現で盛り込む方がよいのではないかと。

（事務局）

- 今後も道路の混雑が考えられ、まだまだ道路は不足しているため、道路整備は必要と考えている。人口減少等は時代背景として書いている。
- 道路の役割は交通機能だけでなく、今後は防災、暮らしの面などのウェイトが上がっていくと考えている。
- 外に出る資料でもあるので、誤解の無いよう表現には気をつけていく。

都自身は「交通量減少時代の到来」という認識があり「策定の際のポイント」としていたにも関わらず「社会的に、道路はこれ以上不要なものではないか」という意見につながりかねない部分（都担当部長）や行政関係者（上の議事録）の内部討議を通じて、都民から道路不要論が出てこないよう意識的に記述を削除しており、策定の基本姿勢として重大な問題です。

現在、未整備となっている都内の都市計画道路は、そのほとんどが終戦直後に戦災復興計画として決定されたもの、または、高度成長期に都市の拡大を前提に決定されたものです。決定後から半世紀以上が経過するなか、まちの様相も社会経済状況も当時から大きく変貌しています。

都市計画道路の整備については、他県他都市では、長期に亘り未整備となっている都市計画道路は大幅に見直し・廃止が進み、新規の大型道路予算を大幅に削減する流れが生まれています。

一方、東京都では、ほとんど縮減する姿勢がありません。第五次事業化計画に向けた検討で不要不急な道路計画は見直すことが必要です。

東京都は新たな「東京における都市計画道路の整備方針（仮称）」の検討を始めました。平成28年3月に策定した「東京における都市計画道路の整備方針（第四次事業化計画）」の計画期間が令和7年度末までであることから、新たな計画策定の検討に着手したことになります。

### 第四次計画は問題山積：抜本の見直しを

これまでの第四次事業化計画は、情報開示資料より様々な問題が山積していたことが明らかになりました。

東京都は、当時の計画策定期間には「策定の際のポイント」に「人口減少、交通量減少時代の到来に備えた道路整備のあり方」を掲げていました（左上議事録）。一方、当初は掲げられた「交通量減少時代」という文言は計画には記載されず、議論の過程で削除されています。

### 杉並区では地域の街並みや文化、コミュニティに着目 仮称デザイン会議等の住民との対話の場を活かして

東京都の都市計画道路の整備評価項目には、道路を整備することにより喪失してしまう閑静な住宅街、地域の文化、商店街等の街並み、地域コミュニティ等々は含まれていません。

それらの価値を明らかにするために、杉並区では都市計画道路地域での（仮称）デザイン会議等の住民との対話の機会が作られています。

杉並区の取り組みを活かし、住民との合意形成を図りながら、第五次事業化計画に向けて、東京都との協議を進めることを求めています。



西荻地域で開催されている（仮称）デザイン会議（第一回）の様子。運営は行政と住民が協働して取り組まれています。公民連携プラットフォーム「すぎなみボイス」に詳細が掲載されています。

2024年度  
杉並区民アンケート  
を実施しています！！

